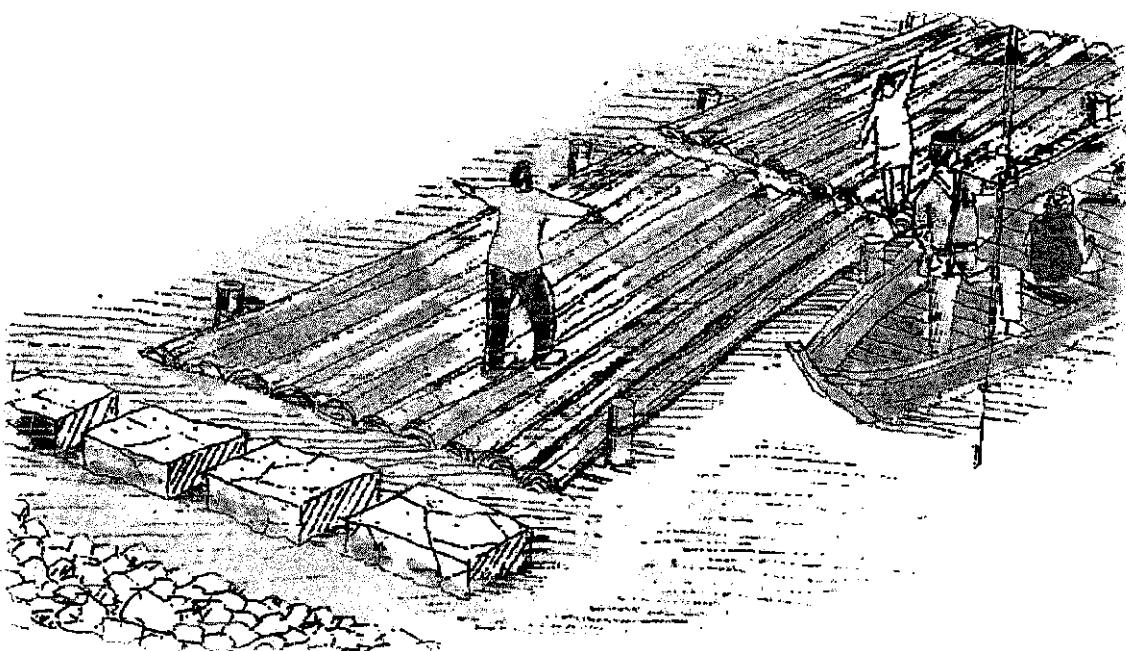


## 5) 各ブロックの目的と導入施設

各ブロックの整備の目的と導入施設の内容を示す。

### ○遊水・体験ブロック

現況の河川空間特有のポテンシャルを生かした整備ならびに支援を行なうブロックとする。船着場や体験学習施設などレクレーション活動の場や、誰もが水に親しめる水辺づくりを行ない、積極的な利用を図る。



○レクレーションゾーン…休日にはピクニック客で賑わう美しい河原を守り、楽しんでいくためにソフトの支援を継続して行なっていく。また、より快適に利用するための駐車場やトイレなどの支援施設との連携を図る。



○船着場…イベント時には、昔の風景を思わせる筏を係留させ、渡し舟や川巡りを行なうための船着場とする。また、平時においても飛び石と木杭の配置により、水辺のアメニティを向上させる。

○ボードウォーク…高水敷部に木製のデッキを配し、テラス型のたまり空間とする。



### ○知水・利用支援ブロック

点在する史跡や歴史街道を結びつけることによって木津川の歴史性を知ることができ、かつ利用者が快適にレクレーションが行なえるための支援を行なうブロックとする。木津川や周辺の町の歴史を伝える歴史散策の開催や木津川渡し船の再現などのイベントを展開していくと共に、駐車場やトイレ、案内施設などの施設の整備を行なう。

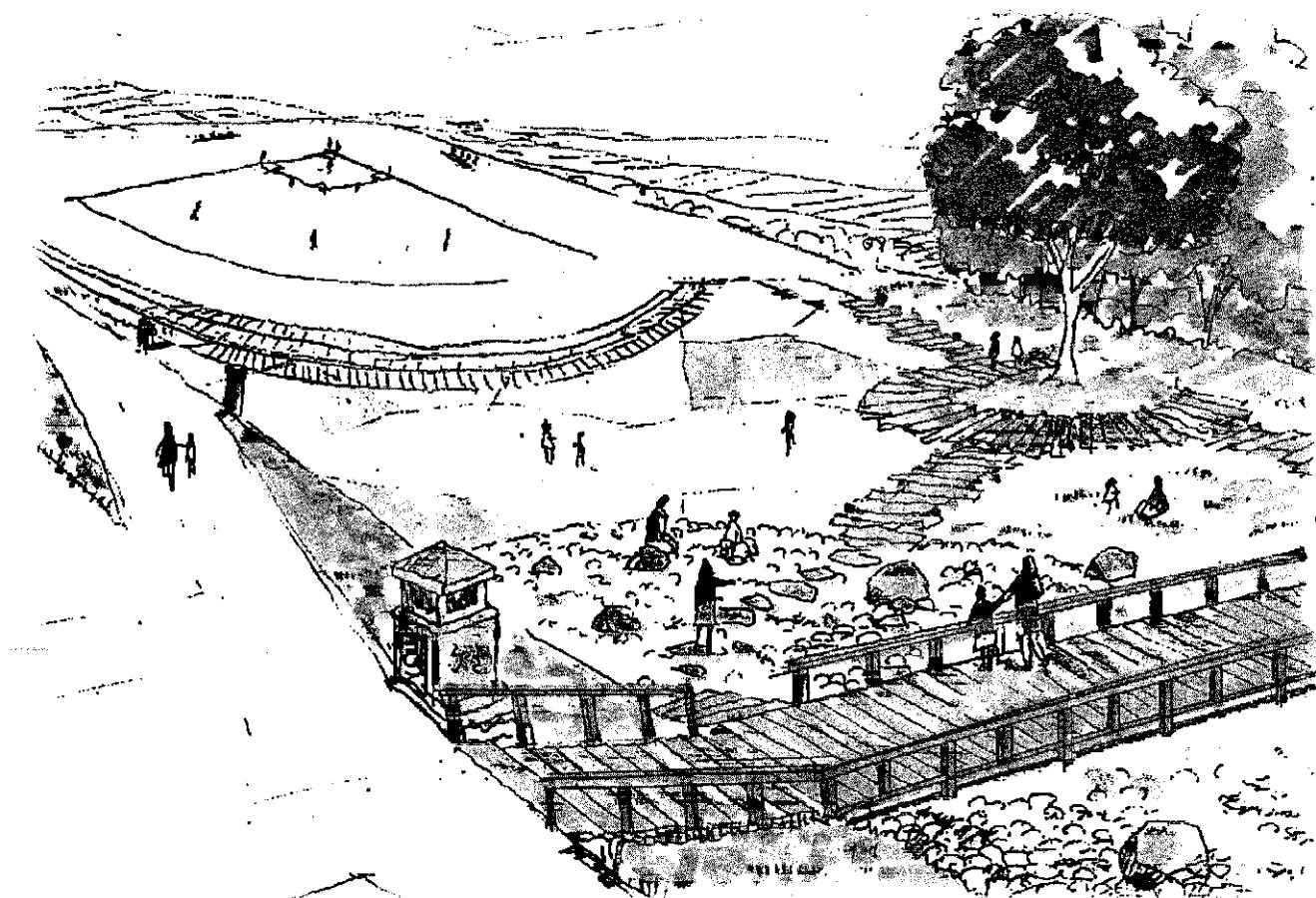
○泉橋広場…現在も橋脚の残る泉橋跡には、旧奈良街道の軸線を象徴するデッキを配置する。休憩やイベントなど多様な活動ができる多目的空間として、隣接する町営グラウンドとの一体的な活用を図る。



○木の津広場…都の外港として多くの材木が陸揚げされ、加工されていた当時の雰囲気の演出するための木屋所風の東屋や木製遊具を配置し、近隣の上津遺跡や御靈神社と併せて歴史体験空間とする。

○駐車場…町民グラウンド脇に10台、市民農園横に50台程度の駐車スペースを設ける。

○トイレ…町営グラウンドの堤内地側に公衆トイレを設置する。



## ○景観緑地ブロック

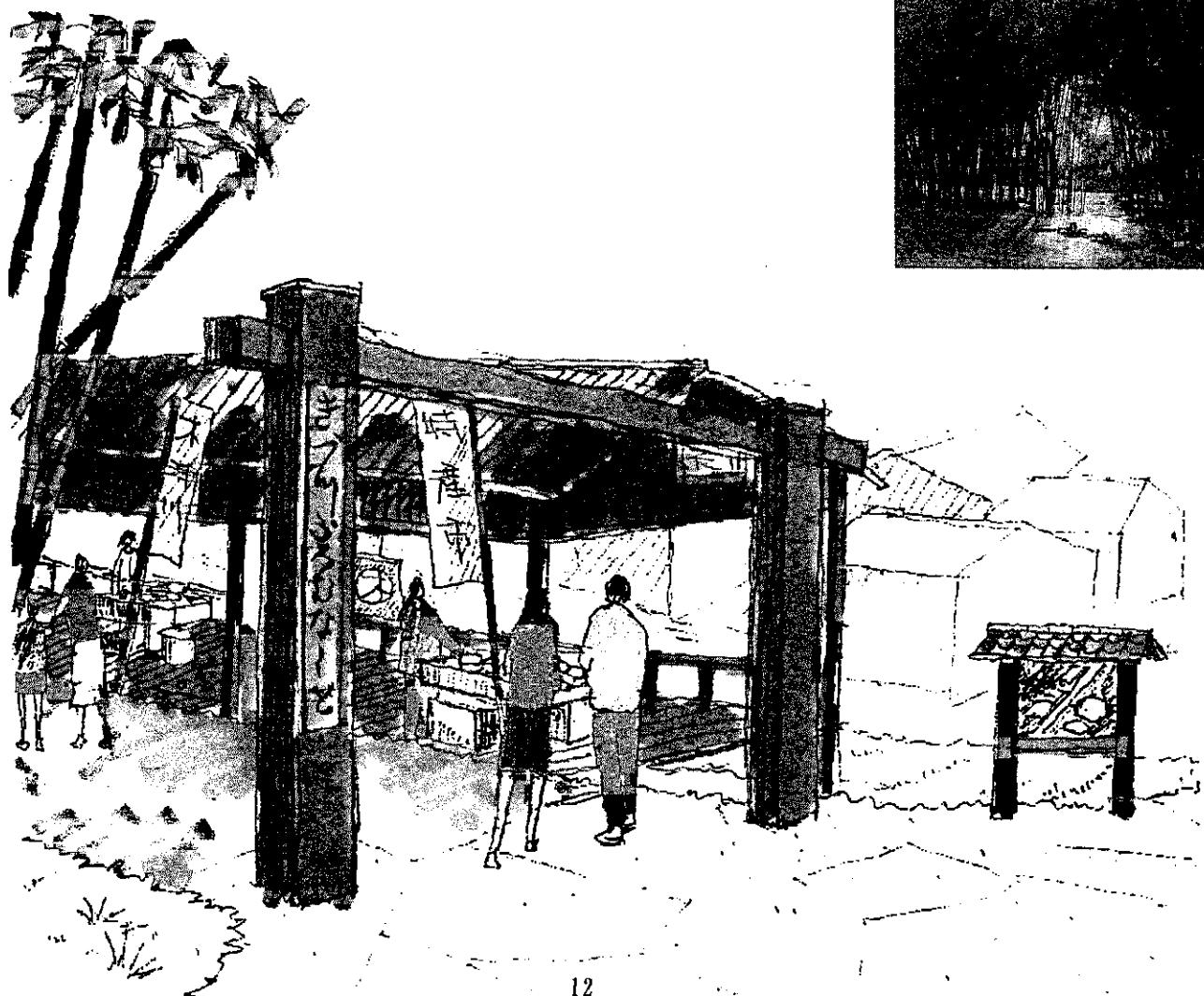
現況の耕作地や緑地を活用し、木津川の景観形成を行なっていくブロックとする。耕作地の管理や支援、整備による住民同士の交流や、自転車道や散策道など線的な地形に合わせた動線の中で草花の植栽により木津川の季節感の演出を行なう。

○ながやぶ広場…水防林として機能してきた竹林を利用して、散策道の整備を行なう。その中核的な場所となるこの広場は、休憩スペースや近隣の施設の紹介、イベントの開催を行なう場所とする。



○市民農園…放棄耕作地や民有畠地の貸し出しによる市民農園を開園する。また、不良な農産物やバーベキュー時のゴミを処理する施設を設置し、コンポスト化により農園の土壤への還元を図る。

○歴史プロムナード…街道沿いの船着場としてさまざまなもののが陸揚げされていた当時の雰囲気を今に伝えるプロムナードを整備する。お茶や飲食物のサービスや、付近で取れた農作物の販売を行なう。



### ○生態系保全ブロック

セイタカヨシやモウソウチク林などの現況植生や水辺の保全を行なっていくブロックとする。昆虫や鳥類の生息環境、および砂洲の安定や現地形の維持を支えている重要な緑地と、飲料水等の水源としている清らかな水を持つ川への愛着を生み出すものとする。

○自然生態園…川水の浄化機能や生物の生息場所として重要な緑地空間の保全と、近隣児童の河川環境学習の場の創出を目的として、水路の整備と、木道やデッキの設置を行なう。

○保全緑地…アシの茂る水際や中洲部など良好な緑地を保持している区域は、サンクチュアリ（聖域）として保全を図る。

